

令和4年度第1回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：令和4年4月21日（木）10時00分～11時10分

場 所：ZoomによるWEB会議

出席者：1号委員 大湊、澤田、奥村【議長】

2号委員 前田、野田、照本、鈴木、Netra、塚原

3号委員 飯高、松四、五十嵐、河野（代理出席）、西野、角、塚原（2号委員兼務）

4号委員 橋本

5号委員 飯塚

6号委員 柴山、畑山、廣井

オブザーバ 中北、松島、福田、井上、三浦

陪 席 河津、織田、中野、大西

（敬称略、委員名簿順）

配付資料：

資料1 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿

資料2 令和3年度第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）

資料3 令和3年度自然災害研究協議会決算報告

資料4 令和4年度自然災害研究協議会本部活動計画及び

各地区部会の活動計画と予算計画

4-1 本部、4-2 北海道地区、4-3 東北地区、4-4 関東地区、4-5 中部地区、

4-6 近畿地区、4-7 中国地区、4-8 四国地区、4-9 西部地区

資料5 令和4年度自然災害研究協議会予算（案）

資料6 第59回自然災害科学総合シンポジウム（案）

資料7 7-1 自然災害研究協議会科研費（突発災害）申請ガイドライン

7-2 突発災害調査委員会名簿（令和4年度）（案）

資料8 データベース SAIGAI 改革に向けた取り組みの進捗報告配付冊子等：

規程、申合せ

議事に先立ち、中北 京都大学防災研究所長および福田 文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長からの挨拶がなされた。

議 事：

1. 委員の紹介（資料1）

総務担当の五十嵐委員より、新規委員が紹介され、欠席の3号委員の安永委員を除く新規委員3名（2号・前田委員、鈴木委員、6号委員・廣井委員）より自己紹介を行った。

2. 令和3年度 第3回協議会議事録（案）の確認（資料2）

奥村議長より、資料に基づき説明があり、原案とおりの了承された。

4. 令和3年度 決算報告（資料3）

五十嵐委員より、資料に基づき説明があり、原案とおりの了承された。

要旨は以下のとおり。

新型コロナウイルスにより、様々な事業が中止やオンライン開催に切り替わったことにより旅費を中心に不用額が発生した。協議会費、国際展開調査費、河川災害シンポジウム、各地区における不用額が大きい。余裕分をSAIGAI 運営経費の執行に充てているが、最終的な残額は1,751,903円となった。予算の残額は繰越できず、全額返納となることが併せて説明された。

5. 令和4年度 本部・各地区部会の活動計画及び予算計画（資料4）

資料に基づき、本部並びに各地区部会より令和4年度の活動計画及び予算計画について説明がなされ、了承された。なお、東北地区は前田委員の代理として6号委員の柴山委員が説明を行い、北海道地区および関東地区は、それぞれ松本委員および内村委員に代わり五十嵐委員により説明がなされた。

（説明要旨は以下のとおり）

○本 部：第59回自然災害科学総合シンポジウムの開催（2022年9月26日 京都大学宇治
おうばくプラザ きはだホールで対面またはハイブリッド開催）、河川災害に関する
シンポジウムの開催（2023年2月頃 場所未定）、科研費（特別研究促進費）・突発

災害調査の実施、突発災害（初動調査、継続的調査等）調査研究サポート、データベース SAIGAI の充実、国際展開調査（世界防災研究所連合（Global Alliance of Disaster Research Institute（GADRI））との連携、日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点（JASTIP）—持続可能開発研究の推進—との連携）、研究者ネットワーク（人材データベース）の整備

なお、データベース SAIGAI の充実の項目に関して、資料 8 を用いて廣井委員より作業の進捗と現在の状況および今後の予定について説明がなされた。また、JASTIP-WP4 について角委員より詳しい説明がなされた。

○北海道地区：幹事会（2 回）・総会（1 回）の開催、地区フォーラム開催、資料センター報告の印刷領布、北海道地区自然災害関係研究者センターHP の管理運営

○東北地区：東北地域災害科学研究集会および東北地区部会総会の開催（幹事校：弘前大学 令和 4 年 12 月頃 対面による開催）、研究論文集「東北地域災害科学研究」第 59 巻の発行（2023 年 3 月を予定）、ウェブページの管理運営、メーリングリスト（東北地区部会員名簿）の管理運営、東北地区自然災害資料センターの管理運営（東北大学災害科学国際研究所ライブラリとの連携）

○関東地区：市民オープンフォーラム（令和 4 年 11 月 5 日開催 埼玉大学／読売新聞さいたま支局 共催 「埼玉大学連続市民講座 危機の時代Ⅱ—しなやかな社会を目指して—」の 1 回分として実施 於：埼玉大学）の開催

○中部地区：げんさい楽座のスピンアウト企画の開催（岐阜大学地域減災研究センター）、減災連携シンポジウムの開催（第 10 回減災連携研究センターシンポジウム 令和 4 年 6 月 24 日 名大減災館およびオンライン）、「三重大学・防災アカデミー（仮）」の開催（三重大学 地域圏防災・減災研究センター 令和 4 年秋以降・津市近郊（予定））、シンポジウム「インフラの耐震性強化・災害復旧とメンテナンス」の開催（名古屋工業大学 高度防災工学研究センター 2022 年 11 月頃 名古屋工業大学）、防災シンポジウムの開催（豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター 2022 年 12 月、豊橋市内）、東海圏減災研究コンソーシアム事業の開催（静岡大学防災総合センター）①東海圏減災研究コンソーシアム事業の開催（2022 年度内・名古屋市内（幹事会）など）②東海圏減災研究コンソーシアムシンポジウムの開催（2023 年 3 月頃、静岡市内（オンラインの可能性あり））、中部地区自然災害史料センターの活動（HP の運営管理、SAIGAI データベースの更新）、自然災害調査・報告活動

- 近畿地区：近畿地区部会メンバー名簿更新、近畿地区部会幹事会の開催、防災関連研究集会の共催、地区部会のホームページの内容更新
- 中国地区：部会ホームページの管理・充実、部会員への情報提供等、『自然災害研究協議会中国地区部会 研究論文集（第9号）』発行。中国地区部会研究発表会（2022年12月～2023年2月の間に研究発表会実施）、各防災研究グループへの活動補助（調査旅費、調査用消耗品等）実施、中国地方（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）在住研究者等との研究活動の連携、山口大学地域防災・減災センターおよびグローバル環境・防災学研究会と連携して諸活動を展開。
- 四国地区：突発災害調査、自然災害フォーラムおよび南海地震四国地域学術シンポジウム合同開催（土木学会四国支部と共催、2022年12月～2023年1月 高松市）、地区部会の開催（2022年12月～1月 高松市）
- 西部地区：地区部会研究発表会の開催、地区部会報の発行、メーリングリストの管理・更新

6. 令和4年度 自然災害研究協議会予算（案）（資料5）

五十嵐委員より、資料に基づき説明があり、原案とおりました承された。

要旨は以下のとおり。

本部予算については、ここ2年ほどは新型コロナウイルス等により変則的な状況が続いていたが今年度は通常どおりの活動ができると見込み、例年どおりの予算編成としており、各地区部会予算は要求額を計上している旨説明された。

議長より、今後も不確実性のある状況は続くと思われるので、予算案をお認めいただいた後でも、運用については柔軟に対応していきたいと考えているので、残額が発生するような状況になった場合は、事務局にご相談いただき、有効に使っていただきたい趣旨の話があった。

また、五十嵐委員より、不用額が出た場合の備品等の購入の可否についての問い合わせを受けることが多いが、これについては、備品等の購入は原則として認めていないが、調査に有効に活用できることということを前提として、

1. 調査費に十分な予算措置がなされていること
2. 備品は京都大学において登録され管理されることになるので、事務局と協力して管理できる体制があること

の2点が満たせる場合は、認められることがあることが説明された。

また、予算執行については、不用額が発生した時は速やかに事務局と連絡するようにとの要

請が行われた。

SAIGAI 運営経費の予算案について、昨年度の執行は赤字になっているが、今年度は例年どおりの予算額で問題ないのかとの質問があった。五十嵐委員より、順序としては SAIGAI 運営経費以外の項目で不用額が発生したため、所蔵資料の燻蒸、データ整理等、SAIGAI 運営経費を有効に使わせていただいた結果として赤字となっているが、今年度については計画どおりに執行が進むことを前提に予算を組んでいる旨説明があった。

7. 第 59 回自然災害科学総合シンポジウムについて（資料 6）

五十嵐委員より、資料に基づき説明があり、原案どおり了承された。

要旨は以下のとおり。

令和 4 年 9 月 26 日（月）京都大学宇治キャンパス内にある京都大学宇治おうばくプラザ きはだホールにてハイブリッド開催予定。

8. 突発災害調査委員会について（資料 7-1、7-2）

五十嵐委員より、申請ガイドラインに沿って申請の手順の説明があった。また委員会のメンバーについて、風水害部会の洪水担当の 2 号委員の朝位委員の退任にともない、3 号委員の角委員を推薦したい旨提案があった。委員構成等を含め原案とおりに了承された。

9. その他

次回（第 2 回）協議会は、9 月 26 日（月）のシンポジウム終了後に実施の方向で調整する。